



青森県漁業士会会報

5.4 vol.28

浜風

HAMAKAZE

発行：青森県漁業士会

青森県水産振興課内

017-734-9592

編集：「浜風」編集委員会



はじめに

コロナ禍により、令和2年度以降、各種活動の自粛を余儀なくされていたことから、浜風の発行は3年ぶりとなります。

そのため、本会報では、令和2～4年度の活動状況等を御紹介いたします。



令和2～4年度青森県漁業士会総会 (書面開催)

コロナ禍により、令和2～4年度の青森県漁業士会通常総会は書面開催となりました。
令和2年度の役員改選では、下記新役員が選任され、全役員が令和4年度に再任しました。

- | | | | |
|-------|-----------------|-----|-------------|
| ○ 会 長 | 秋田 正明 (横浜町漁協) | | |
| ○ 副会長 | 大川 昭一 (新深浦町漁協) | 坂岡 | 正彦 (三沢市漁協) |
| ○ 理 事 | 船橋 智 (平内町漁協) | 八戸 | 翼 (平内町漁協) |
| | 大宮 千恵子 (蓬田村漁協) | 沼辺 | 啓市 (小川原湖漁協) |
| | 尾崎 幸弘 (八戸みなと漁協) | 奈良 | 恒人 (鰯ヶ沢漁協) |
| | 坂崎 祐也 (風合瀬漁協) | 上小倉 | 良次 (川内町漁協) |
| ○ 監 事 | 齋藤 大 (青森市漁協) | 長内 | 詩子 (鰯ヶ沢漁協) |
| | 白濱 信生 (岩屋漁協) | | |



新名誉漁業士の紹介

令和元～3年度に各支部から推薦された新名誉漁業士11名へ、令和4年8～9月に県から感謝状が贈られました。

名誉漁業士になられた皆様には、長きにわたり地域漁業の振興や後継者の育成など、当会の活動に御尽力いただき、大変ありがとうございました。

○ 新名誉漁業士の一覧

支部名	所属漁協	氏名	推薦年度
東青	後 潟 漁 協	神山 義照	R1
	外ヶ浜 漁 協	田澤 米逸	R3
	平内町 漁 協	逢坂 喜八	R3
三八	階上 漁 協	坂下 利助	R2
	市川 漁 協	木田 茂美	R3
	市川 漁 協	木村 義博	R3
むつ	小田野沢 漁 協	二本柳 勝	R2
	脇野沢村 漁 協	立石 政男	R2
	脇野沢村 漁 協	立石 由喜子	R2
	尻 労 漁 協	小笠原 清春	R3
	岩屋 漁 協	相馬 健三	R3

三八漁業士会



坂下 利助氏(左)



木村 義博氏(左)



木田 茂美氏

東青漁業士会



逢坂 喜八氏(下段左)、神山 義照氏(下段右)



田澤 米逸氏(下段中央)

むつ支部会



立石 由喜子氏(左)、立石 政男氏(右)



相馬 健三氏(左)



二本柳 勝氏(左)



小笠原 清春氏(左)

新会員の紹介

令和2～4年度に青年漁業士が4名、指導漁業士が11名認定されました。

令和4年度に認定された指導漁業士3名への認定証の交付は、令和5年度青森県漁業士会通常総会前に行う予定です。

○新漁業士の一覧

区分	支部名	所属漁協	氏名	認定年度
青年 漁業士	東青	平内町漁協	遠嶋 道拓	R3
			柴田 賢	R3
			太田 悠介	R3
	三八	百石町漁協	沖田 考平	R2
指導 漁業士	東青	蓬田村漁協	張間 大介	R2
			渡部 鉄也	R4
		青森市漁協	須藤 義弘	R4
	三八	小川原湖漁協	沼辺 正孝	R2
			千葉 優士	R3
		百石町漁協	杉山 秀治	R2
		八戸鮫浦漁協	関野 稔	R2
	むつ	川内町漁協	上小倉 良次	R2
		大畑町漁協	佐藤 敏美	R2
		尻労漁協	向井 祐樹	R3
			小笠原 亮平	R4

○新青年漁業士

○平内町漁協小湊支所 柴田 賢（ホタテガイ養殖）

令和3年度に青年漁業士の認定を受けました平内町漁協小湊支所の柴田です。

私はホタテガイ養殖を営んでいます。「日本一美味しいホタテガイを作ること」を目標にして、浜の活性化のために頑張ります。



○平内町漁協小湊支所 太田 悠介（ホタテガイ養殖）

令和3年度に青年漁業士の認定を受けました平内町漁協小湊支所の太田です。

私の代からホタテガイ養殖を始めました。成貝主体で「ホタテガイ年間水揚げ金額1億円」を目標に、浜を活性化させます。



○平内町漁協小湊支所 遠嶋 道拓（ホタテガイ養殖）

令和3年度に青年漁業士の認定を受けました平内町漁協小湊支所の遠嶋です。

ホタテガイ養殖を営んでいます。ホタテガイの適正養殖に努め、ホタテガイ養殖の活性化のために頑張ります。



○百石町漁協 沖田 考平（ホッキ栢網、定置網）

令和2年度に青年漁業士の認定を受けました百石町漁協の沖田です。

私はホッキ栢網漁業と定置網漁業を営む3代目です。ホッキガイ漁業の協業や近年不振が続いているサケのふ化場への海産親魚の提供などを行いながら、浜の活性化のために頑張ります。



○新指導漁業士

○蓬田村漁協 張間 大介（ホタテガイ養殖）

令和2年度に指導漁業士の認定を受けました蓬田村漁協の張間です。

ホタテガイ養殖を営んでいます。今、ホタテガイ養殖は採苗不振等の厳しい状況が続いていますが、未来永劫続く「ホタテガイ養殖」を目指して頑張ります。



○蓬田村漁協 渡部 鉄也（ホタテガイ養殖）

令和4年度に指導漁業士の認定を受けました蓬田村漁協の渡部です。

現在、東青漁業士会の理事を務めています。今後東青管内を取り巻く様々な問題に、漁協や漁業士会の仲間、水産事務所とともに前向きに取り組んでいきます。



○青森市漁協 須藤 義弘（ホタテガイ養殖）

令和4年度に指導漁業士の認定を受けました青森市漁協の須藤です。

現在、東青漁業士会の理事を務めています。東青漁業士会や湾内漁協との交流で得た人脈を基に地元漁業の活性化と発展に尽くしていきます。



○小川原湖漁協 沼辺 正孝（シジミ漁、定置網）

令和2年度に指導漁業士の認定を受けました小川原湖漁協の沼辺です。

平成19～24年度まで小川原湖漁協青年部長を務め、水産事務所と協力しながら各種調査を実施してきました。今後も地元の漁業士と一緒に小川原湖を取り巻く様々な問題に前向きに取り組んでいきます。



○小川原湖漁協 千葉 優士（シジミ漁）

令和3年度に指導漁業士の認定を受けました小川原湖漁協の千葉です。

令和2～4年度まで小川原湖漁協青年部長を務め、各種調査を始め、水産業の振興や若手漁業者の指導、販売促進活動に努めています。引き続き、地元の漁業士と一緒に小川原湖の漁業振興を目指します。



○百石町漁協 杉山 秀治（ホッキ栢網、定置網）

令和2年度に指導漁業士の認定を受けました百石町漁協の杉山です。

私は約20年東京都の一般企業に勤めていましたが、平成24年3月に46歳で漁師になることを決意しました。今後は次世代に模範を示すことの出来るような人材になるよう努力していきたいと考えています。



○八戸鮫浦漁協 関野 稔（採介藻、刺網、一本釣り）

令和2年度に指導漁業士の認定を受けました八戸鮫浦漁協の関野です。

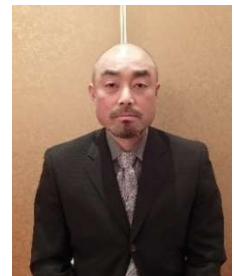
三八漁業士会で浜風の編集委員を担っており、漁協では令和元年に組合長に就任しました。漁業士活動を通じて得られた他地区の漁業者とのつながりや知識を財産に、今後も健全な組合運営に努めていきたいと考えています。



○川内町漁協 上小倉 良次（ホタテガイ養殖）

令和2年度に指導漁業士の認定を受けました川内町漁協の上小倉です。

私は、ホタテガイ養殖を営んでおり、養殖に係る問題を所属する漁協青年部内で考え、解決に向けて取り組みながら、養殖を続けてきました。今後も、積極的に活動に参加し、地元漁業活性化のために知識や技術を学んでいきたいと考えています。



○大畑町漁協 佐藤 敏美（定置網）

令和2年度に指導漁業士の認定を受けました大畑町漁協の佐藤です。

私は、定置漁業に従事し、また、町おこし集団「海峡口デオ大畑」の会長として地域の活性化に取り組んでいます。これからも、漁業士会での活動に積極的に参加し、知識を学び交流を深め、地域漁業の振興に貢献していきたいと考えています。



○尻芳漁協 向井 祐樹（底建網）

令和3年度に指導漁業士の認定を受けました尻芳漁協の向井です。

私は、底建網漁業を中心に一本釣り漁業等に従事し、資源管理の基に水揚向上の努力をしてきました。今後は、これまで青年漁業士として培った経験を活かし、後継者の育成や地域漁業の振興に貢献していきたいと考えています。



○尻芳漁協 小笠原 亮平（底建網）

令和4年度に指導漁業士の認定を受けました尻芳漁協の小笠原です。

私は、父とともに底建網漁業に従事し、むつ支部会の研修会や活動を通じて漁業に関する知識を深めてきました。これからも、指導漁業士として積極的に活動に参加し、地元地域の漁業活性化のために知識や技術を学んでいきたいと考えています。





令和4年度東北・北海道ブロック漁業士研修会

三八漁業士会 八戸市南浜漁協 深川 修一

今年度の東北・北海道ブロック漁業士研修会は、令和5年1月21日（土）に岩手県盛岡市（アートホテル盛岡）において開催されました。コロナ禍により令和2、3年度は延期し、3年ぶりの開催で、青森県漁業士会は、東青漁業士会から齋藤会長、八戸副会長、吉田理事の3名、三八漁業士会からは私が出席しました。

研修会に先立って行われた東北・北海道ブロック協議では、令和5年度全国漁業士連絡会議で提案するディスカッションテーマについて協議され、検討の結果、本県から提案した【漁業士が携わっている「海業（うみぎょう）」の取組事例について】に決定しました。

その後行われた研修会では、国立研究法人水産研究・教育機構 水産資源研究センター底魚資源部副部長の木所英昭氏から「気候変動による漁業資源への影響と水産業の適応について」と題して講演が行われました。

研修会終了後の交流会においても意見交換が活発に行われ、大変有意義な時間を過ごすことが出来ました。

次回開催県は茨城県（時期未定）です。多数の参加をお願いします。



岩手県漁業士会 佐々木会長挨拶



本県からの活動報告等（八戸氏）



本県集合写真（左から森普及員、深川氏、齋藤氏、八戸氏、吉田氏）



令和4年度日本海ブロック漁業士研修会

日本海支部会 事務局

令和4年10月8日、日本海ブロック漁業士研修会が秋田県秋田市にあるアキタスクエアで開催されました。

今回の研修会は講演方式ではなく、3つのテーマごとに出席者をグループ分けし、各テーマの講師とグループセッションする方式で行われました。

『魅力ある漁村とは』というテーマでは、秋田県農山漁村振興課長の佐藤大祐さんが進行役となり、課題や必要な取組について意見交換しました。「学校の統廃合により子供の送迎が大変になった」「地域資源である地元の魚が食べられない・取り扱う魚屋がない」といった課題や、「地域おこし協力隊など地域外から来る人の意見を取り入れた情報発信が効果的」「外の人を迎える環境づくりが必要」などの意見が出されました。

『将来の漁業のために今何をすべきか?』というテーマでは、一般社団法人日本定置漁業協会アドバイザーで自民党衆議院議員の坂井学さんが進行役となり、新造船や産廃処理、保険、燃油対策に係る資金を行政に支援してほしいという要望や、新規参入しやすい態勢づくり、プレジャー船による漁具被害が多いことから遊漁のルールづくりを希望する意見があがりました。

『後継者問題について』では、ポケットマルシェを立ち上げた株式会社雨風太陽代表取締役の高橋博之さんが進行役となり、後継者問題の打開策として、地元以外からの組合への加入を認めることや婚活などがあげられました。

今回の研修会では、これからの漁業を考える上での問題点について、各県の状況や考えを知ることができました。今回出された意見を参考とし、漁業士とともにこれからの漁業について考えていきたいと思います。



グループセッションの様子



支部会トピックス

○東青漁業士会

野辺地町漁協

横濱

福太郎

○ 縄文ロマンほたて王国あおもり」～縄文人とほたて貝～

紀元前6000年前の縄文遺跡から「ホタテガイの貝殻」が発掘され、縄文時代からホタテガイが食べられてきたことわかってきました。そこで、令和2年9月6日に青森県ほたて流通振興協会と「青森ほたて」PR活動の一環として、『「縄文ロマンほたて王国あおもり」～縄文人とほたて貝～』のイベントを開催しました。



齋藤会長による挨拶

残暑の中、地元小学生の協力を得て、青森市の油川ふるさと海岸海水浴場から三内丸山遺跡までの7.9kmを当会員22名が陸奥湾で養殖したホタテガイ8kgを縄文人に思いを寄せ、また「青森ほたて」の消費拡大に繋がることを期待し、約3時間かけて担ぎ運搬しました。



海水浴場からスタート



ホタテガイ運搬中



三内丸山遺跡でゴール

○ 青森ほたてキャラバン隊

青森県ほたて流通振興協会とともに「青森ほたてキャラバン隊」として、県内各地の小学校を訪問し、「青森ほたて」出前講座を続けています。

令和2年～4年の間は年間3校ずつ訪問し、県内の小学生へ「青森ほたて」を身近に感じて貰えるように、会員が懇切丁寧に「ホタテガイ養殖の講義」と「養殖におけるロープワークの実演」などを行いました。出前講座を受けた小学生からの評判は非常に好評でした。



ホタテガイほやき体験



ロープワーク実演

○ 研修会

令和4年11月30日に青森市はまなす会館で東青漁業士会研修会を開催しました。今年度は「採苗不振」であったこともあり、会員以外の漁協研究会等も参加しました。

（地独）青森産技水産総合研究所漁場環境部の高坂部長、ほたて貝部の山内部長と遊佐主任研究員を講師として招き、「陸奥湾の環境と赤潮」と「今後のホタテガイ養殖」について説明していただき、参加者は新たな知見を深めました。



研修会の様子



山内部長による説明

○ 日本海支部会

風合瀬漁協 坂崎 祐也

○ 中学生への漁業に関する水産教室

令和4年5月30日、深浦町立大戸瀬中学校1年生11名を対象に、地域の基幹産業である漁業を知ってもらうことを目的とした「網起こし体験」が行われました。

定置網の網起こし体験後、深浦町北金ヶ沢会館において、山下指導漁業士が講師となり、実際に使用している漁具を見せながら深浦で行われている漁業について説明しました。生徒たちは熱心に耳を傾け、見慣れない漁具に興味を持って質問していました。



山下指導漁業士による漁具説明

○ 園児への小川原湖に関する水産教室

令和5年2月20日（月）に青森原燃テクノロジーセンターにおいて開催された東北ロータリークラブ主催の水産教室に、小川原湖漁協所属の指導漁業士3名（濱田正幸指導漁業士、沼辺正孝指導漁業士、私）が講師として参加しました。

水産教室は、東北町内の12の保育所と認定こども園の年長児約90名を招き、小川原湖に生息する生き物やシジミ漁業について、「小川原湖で取れない魚は？」などのクイズを交えたり、じょれんを使ったシジミ漁の様子を再現しながら講演しました。

会場にはモクスガニやワカサギ、シジミなど小川原湖に生息する生き物を展示し、さらに東北町のゆるキャラ「しじみーる（東北町観光協会協力）」と青森県産品PRキャラクター「決め手くん（三八地方水産事務所協力）」にも登場してもらい、子どもたちは楽しみながら地元の小川原湖について理解を深めました。

最後に園児たちへ真空パックした冷凍シジミをプレゼントして終了しましたが、園児たちの歓声や笑顔がいっぱいの楽しい水産教室となりました。



会場の様子



漁具の紹介(濱田指導漁業士)



冷凍シジミの紹介(沼辺指導漁業士)



集合写真（参加した園児と東北ロータリークラブの皆様、決め手くん、しじみーる）

むつ支部会は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、活動困難な状況が続いておりましたが、令和3・4年は活動の幅を徐々に広げ、水産教室、通常総会及び研修会を開催することができました。

○ 水産教室

水産教室は関根、脇野沢、風間浦、むつの4箇所で実施しました。関根と脇野沢では、ホタテガイを対象に座学やほやし体験を行い、風間浦ではキアンコウを対象に座学を行い、むつでは青森県教育支援プラットフォーム下北地区協議会が主催するユメコ教室で漁業についての座学を行いました。

○ 研修会

令和5年2月17日に開催した研修会では、令和5年3月1日に開催された第28回全国青年・女性漁業者交流大会で発表した「磯焼け場に生息するキタムラサキウニの利用について」について風間浦漁協蛇浦支所青年部部長の木下清氏に発表していただきました。発表後には、木下氏の活躍を期待して出席者から激励の拍手が送られました。

○ 今後について

まだむつ支部会の活動は本調子とはいきませんが、新型コロナウイルス感染症拡大の動向を伺いながら役員会で活動について検討し、子供たちを対象とした水産教室や年2回開催する研修会、海浜清掃、生産者による豊漁・豊作祈願祭などの活動を通じて、下北地域の漁業振興・魚食普及、またそれに向けた知識の習得に努めていきます。



令和4年度通常総会



水産教室
(ホタテガイのほやし体験)



令和5年度第1回研修会

第64回青森県青年・女性漁業者交流大会

令和5年1月26日、青森市のアピオあおもりにおいて「第64回青森県青年・女性漁業者交流大会」が開催されました。4人の発表者がそれぞれのテーマに沿って、その活動の実績を発表しました。

優秀賞には「下北の小さな港から大きな海へー小さな思いは地域を変えるー」を発表した、株式会社尾駁鮮魚団代表取締役 橋本 翔さんが選ばれました。

橋本さんは、令和6年3月に開催予定の「第29回全国青年・女性漁業者交流大会」で、本県代表として発表することになりました。



※ 「第65回青森県青年・女性漁業者交流大会は、県民福祉プラザで令和6年1月24日(水)に開催する予定です。

第28回全国青年・女性漁業者交流大会

令和5年3月1日～2日、東京都千代田区のグランドアーク半蔵門で開催された「第28回全国青年・女性漁業者交流大会」において、「第63回青森県青年・女性漁業者交流大会」で「磯焼け場に生息するキタムラサキウニの利用について」を発表し優秀賞を受賞した、風間浦漁業協同組合蛇浦支所青年部長 木下 清さんが発表し、JF全国女性連・JF全国漁青連会長賞を受賞しました。



水産振興課から

農林水産部水産局水産振興課
企画・普及グループ

若者世代に向けたあおもりの魚食普及事業

県では、魚食の定着による魚介類の消費拡大を図るため、**若者世代に向けたあおもりの魚食普及事業**により、魚介類の消費が比較的少ない若者世代を対象として、県産水産物を用いた「魚食普及」と「魚食のイメージアップ」に取り組んでいます。

具体的には、魚食を普及するため、大学生や新社会人などを対象に、手軽に料理できるホタテガイの味噌貝焼きやウスメバルの煮付けなどのメニューと水産物のうんちくを盛り込んだ教材を活用し、漁業者を講師とした料理講習会を実施しています。参加者には、講習会の様子や本県水産物のおいしさをSNS等で発信してもらい、県産水産物の消費拡大を図っています。



魚食普及に係る電子版教材
(表紙)



料理講習会講師（中央）と参加者



講習会でつくったイクラ醤油漬け

👉 はこちらから
👉



電子版教材QRコード

新規漁業就業者受入サポート事業

県では、「**新規漁業就業者受入サポート事業**」により、漁村地域で就業希望者が漁業主体で周年働くことができる体制づくりに取り組んでいます。

また、参加者のニーズに応じた漁業体験を実施しているほか、令和3年度に開設した新規漁業就業者向けサイト「あおもり漁師への道」による求人情報等の発信も引き続き行っています。



青森県の新規漁業就業希望者向けサイト
「あおもり漁師への道ーあおもりで漁師目指そうー」

※ 料理講習会及び漁業体験の講師を引き受けてくださる漁業者や新規就業者の受入れを希望する漁業経営者がいらっしゃいましたら、水産振興課または各地区の水産業普及指導員へお気軽にお声掛けください。

漁業後継者育成研修 ひん よう じゅく 賓 陽 塾

令和5年度受講生募集のお知らせ

【研修内容】

- 1 漁業基礎研修（8月～9月：水産総合研究所）
 - ・水産知識 漁業関係法令・制度、栽培漁業・資源管理
簿記漁業経営、ホタテガイ養殖、漁獲物の
鮮度保持
 - ・漁業技術 ロープワーク（各種ロープさつま加工など）
沿岸漁業実習（ホタテガイ養殖）
 - ・視察研修 県内の水産関連施設



- 2 資格取得講習（8月下旬：水産総合研究所）

一級・二級小型船舶操縦士（※）

※受講には、漁業基礎研修の参加が条件となります。

【募集要項】

募集人員：10名程度

通学方法：各自交通手段による通学制（水産総合研究所で行う研修を受講する場合は、同所内宿泊施設の利用も可能）

受講料：無料（資格取得のための経費は各受講者が負担）

応募資格：県内の漁業後継者または県内の漁業へ就業を希望する者（性別・年齢不問）

受付期間：令和5年4月1日～5月31日

随時受付

出前講座

対象：県内の漁協青年部や漁業研究会等の団体 開催人数：10名程度 開催場所：現地

内容：各種ロープワーク（さつま加工等） 開催期間：4月～3月

《お問い合わせ》

青森県農林水産部水産局水産振興課企画・普及グループ

電話：017-734-9592

地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所

電話：017-755-2155

東青地域県民局地域農林水産部東青地方水産事務所

電話：017-765-2520

三八地域県民局地域農林水産部三八地方水産事務所

電話：0178-21-1185

西北地域県民局地域農林水産部西北地方水産事務所

電話：0173-72-4300

下北地域県民局地域農林水産部下北地方水産事務所

電話：0175-22-8581

浜風編集委員

伊勢田 啓 二（白糠漁協）
関 野 稔（八戸鮫浦漁協）
坂 崎 祐 也（風合瀬漁協）
横 濱 福太朗（野辺地町漁協）



青森県漁業士会会報「浜風」5.4 vol.28
